

## 第 8 回日台戦略対話—逐次情報概況 —

1. 2027 年には、人民解放軍の海軍と空軍が、南西海域、南東海域、東海域から、台湾全島の 24 マイルに隣接する地域に頻繁に侵入する。同時に、与那国島と台湾の間の海域である宮古海峡への出入りを続け、台湾と西南諸島を包囲する戦略的状況を形成し、公船による釣魚台諸島の領海の哨戒活動を続けた。沿岸警備隊と海上民兵隊の偵察が認められる。
2. 2027 年 6 月 17 日、人民解放軍の 2 隻目の空母「福建」(018)が正式に人民解放軍の系列に組み込まれ、最初の「山東艦艇」と共に演習を実施し、「台湾独立戦争」を攻撃する準備が整った。両空母戦闘群が編成され、台湾海峡周辺で演習を続けている。演習は成功し、習近平は毅然とした態度で台湾問題を解決しなければならないと述べた。
3. 2027 年 6 月下旬、中国共産党中央軍事委員会主席の習近平は、人民解放軍の創設 100 周年を祝うことを発表し、青島地域で海上軍事パレードを行い、ロシアと中国を招待した。他の同盟国が参加する 台湾海峡は国際的に忙しい水路になっている。人民解放軍の海軍と空軍も、実際の戦闘偵察とパトロール活動を増やして、台湾と南西諸島に嫌がらせをしている。
4. 2027 年 7 月、米国と日本の自衛隊は、南西部の「同盟作戦」を対象として、同盟国の共同軍が「沿海戦」の課題を遂行したことを確認するための軍事演習「レゾリュートドラゴン 2027」を開始した。第一列島の島々のコンセプトは「自然」。この演習では、台湾を招待して、関連する卓上戦争ゲームと緊急医療および海上救助演習にオブザーバーとして参加を要請した。
5. 2027 年 7 月中旬、中国国務院台湾事務局のスポークスマンは、日米同盟の軍事演習への台湾の参加を批判し、「米国を利用して独立を求める」ことを企てており、交渉の切り札になることを望んでいる。ワシントンが「中国を支配するために台湾を利用する」ため、台湾当局が「悔い改め」直ちに停止しない場合、人民解放軍は、国の主権、独立、領土保全を守るために必要なことは何でも行い、必要な軍事行動をとる。
6. 2027 年 8 月 1 日、習近平主席は人民解放軍創設 100 周年記念会議を主宰し、北京の天安門広場で盛大な軍事パレードを行った。新しい極超音速対艦ミサイルの東風 17 と最新の烏鎮 7 高高度長距離 UAV の展示に加えて、浙江、福建、広東のミサイル基地はすべてミサイル システムの活性化の兆候を示しており、大規模なスケールの部隊の動きがある。
7. 2027 年 9 月、中国共産党北戴河会議が閉幕し、第 21 回中国共産党全国代表大会を成功裏に開催するため、「台湾問題」の解決が会議の主要な議題となった。習近平の強い要請を受けて、参加メンバーは台湾政策の「最終的な結論」を設定し、祖国の統一プロセスが 2027 年に成

果を上げなければならないことを、政治活動における兩岸関係の重要なマイルストーンとして要求している。

8. 2027年10月1日、習近平主席は中華人民共和国の国慶節を主宰し、世界中の要人を招待し、台湾の内部司令官、市民組織、退役将軍を祝賀会にも参加するよう特別に招待した。台湾の大陸問題評議会は厳しい批判姿勢をとり、与野党間の激しい論争を引き起こしたが、同時に、統一党のメンバーは立法院の周りに長い間集まり、戦争の再発でウクライナの悲劇を繰り返さないよう早期統一を促進すべきとした。

9. 2027年10月10日、台湾総統は中華民国の建国116周年を記念して中央記念会議を主宰し、その日、人民解放軍の航空機と船舶が海峡の中央線を越えて侵略を試みた。台北を同心円とする24マイルの隣接エリア、台湾全土の空港と港は警戒態勢に置かれ、国防省は戦闘準備のレベルを上げると発表し、メディアは人民解放軍の実弾射撃演習を報道し、一部の政治評論家は人民解放軍が台湾との戦争に備えると主張したので、台湾の人々の心を騒がせている。